

アクションプラン2022-2027 達成ロードマップに基づく

令和4年度 実績概要

本資料の概要

「アクションプラン2022-2027 達成ロードマップ」を着実に実現するため、各部局は毎年度の実績を、その年度末に報告することとしています。

各部局から報告された令和4年度の実績は、宇都宮大学点検・評価委員会が、その内容の自己点検・評価を実施しました。また、その結果は5段階の評価とコメントを付した上で、各部局にフィードバックとして通知しています。

本資料は令和4年度の実績のうち、点検・評価委員会において、
「着実に成果を上げている取組」
「達成に向けて強化が必要な取組」
と判断されたものを中心に記載しています。

Vision 1 未来を切り拓く人材の育成

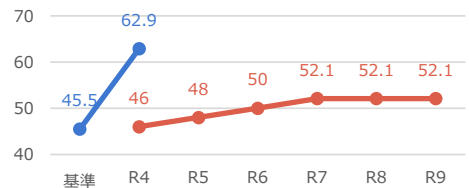
着実に成果を上げている取組

戦略1 【学修者本位の教育の実現】

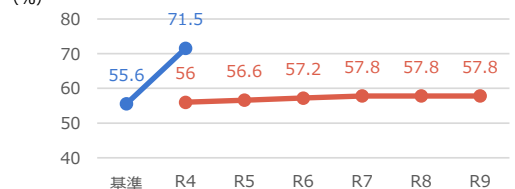
学生の学修意欲を高め主体的な学修を確立するために、学修の質を継続的に検証・可視化するとともに、学生の獲得能力を社会に説明するためのディプロマ・サプリメントを開発し運用します。

- ▶ ルーブリック評価とブレンディッド・ラーニングの全学導入に向け、試行導入やFD活動での展開・啓発などを計画通りに実施しました。
- ▶ 令和4年度の全学FDでは、ルーブリック評価についての講演会と、本学における実践事例の解説・紹介を行うなど、全学的な取組へ発展しています。
- ▶ なお、新入生の大学教育への満足度^(*)や卒業生に対する企業等の評価^(**)は、基準値と比較して大きく伸びており、次年度以降へ向けた要因分析を進めていきます。

(*)新入生の大学教育への満足度：
(%) 第3期平均の12%増



(**)卒業生に対する企業等の評価：
「期待を上回る」の割合：H30～R2平均の5%増



※本資料内のグラフでは、青線は実績値、
橙線は各年度の目標値を示しています。

戦略2 【時代を先導する教育組織・プログラムの創出】

地域社会や産業界が求める数理・データサイエンスの素養を持ち、経営学の基礎と特定の分野の経営に関する実践的な知識を身に付ける新たな学位プログラムを創設します。

- ▶ 「文理融合型数理・データサイエンス教育プログラム(基礎コース)」が文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に認定されました。上記のプログラムは令和4年度までに延べ234名が修了し、目標値(200名)を達成しています。



- ▶ 群馬大学・茨城大学との3大学連携事業として、データサイエンス教育プラットフォーム分科会や3大学教育プラットフォーム合同委員会を実施し、各教育分野での課題を共有するなど、学外連携にも取り組んでいます。
- ▶ データサイエンス経営学部(仮称)の令和6年度設置に向けて文部科学省と折衝を重ね、3月に設置申請書を提出することとなりました。

本プログラムでは、数理・データサイエンスの基礎的な素養を習得します。文理の特長にとらわれないことなく、実社会において活かせる知識の基礎を学び、将来、地域創生を中心的に担える人材の育成を目指します。

対象学生 全学部1年生～3年生 (令和2年度以降入学の学部生)

修了要件 「データサイエンス入門」(2単位)及び「データサイエンス基礎」(2単位)もしくは「実践データサイエンス」(2単位)のうち1科目の合計4単位を取得

全学1年次必修 「データサイエンス入門」(2単位)
情報リテラシー、統計学、統計学基礎、Excel、Pythonの基礎等

2科目のうち1科目を選択 「データサイエンス基礎」(2単位)、「実践データサイエンス」(2単位)
データ分析(Python)、AI・機械学習の基礎、実務統計法、ウェブスクレイピング等

●本プログラムへの申込みは不要です。
●修了要件である4単位を取得すると、自動的に本プログラム修了となります。
●修了証の交付を希望する場合は、基礎教育係までご連絡ください。

Vision 1 未来を切り拓く人材の育成

着実に成果を上げている取組

戦略5 【高大接続改革と新たなアドミッションの展開】

高大連携活動を拡充・強化するとともに、高大連携事業として実績のある科学人材育成プログラム（iP-U）を活かした高大接続入試を実施して、iP-Uで育成したポテンシャルの高い人材を迎え入れ、科学や地域社会の発展に熱意を持つ優秀な人材の育成に寄与します。

- ▶ iP-Uのカリキュラムをより多くの高校生に届けるため、令和4年度より、主に高校1年生を対象としたiP-Uゼミナールを新たに開講しました。
- ▶ 募集の結果、当初予定(20名)の倍以上となる46名の応募があり、全員が全課程のプログラムを修了しました。
- ▶ iP-Uで本学教員と共に研究活動を行っている県内の高校生が、「グローバルサイエンスキャンパス令和4年度全国受講生研究発表会」において「科学技術振興機構理事長賞」を受賞しました。
発表タイトル：凝集誘起発光を目指した新規蛍光色素の合成



戦略6 【学生の多様なニーズへの支援の充実】

様々な背景を持つ学生へのサポートを拡充し、誰もが安心して共に学ぶインクルーシブな環境を整備します。学生へのメンタルヘルスケアの充実とともに、手厚い経済的支援を拡充します。

- ▶ 「学生なんでも相談窓口」へのインターカーおよびカウンセラーの配置や、教職員に対する障がい者対応に関する研修を実施し、学生支援体制の強化を進めています。
- ▶ 「学生なんでも相談窓口」への年間相談件数は、令和4年12月時点で241件となっており、増加傾向にあると同時に、多様化・複雑化する相談に対応しています。
- ▶ 「大学の支援体制への満足度」を調査し、「とても満足」および「満足」と回答した割合は39.2%となり、前年度と比して7.7ポイント増加しました。
- ▶ ピア・サポート研修の実施等により、両キャンパスにおける学生相談機能を強化しました。

あなたが大学生活を送るうえで、悩みや心配事が起きてしまったときは、お気軽に窓口にご相談ください。相談ごとに応じてサポートします。もちろんプライベートに配慮し、秘密厳守です。

● 学生なんでも相談窓口 ●

- 緑地区 ⇨ 学数棟 2F TEL.028-649-5276
- 黒東地区 ⇨ 学生プラザ1F TEL.028-689-6189

WEBから
『学生なんでも相談窓口/相談フォーム』に
入力後、送信してください

← カウンセラーとの相談を希望する方は、こちらのフォームから予約してください。
予約受付時間：受付日(10時～18時)、受付日(18時～18時) ※以上以外のお問い合わせは受付できません

相談例 ● 授業、履修、留学、進路、就職活動、日常生活・経済的なこと、セクハラ、パワハラ、対人関係、メンタルヘルス、アクシデント、その他

？ 進学・履修は
● 指導教員
● 進学支援 TEL.028-649-5000
● 履修支援 TEL.028-689-6014

？ 進路・就職は
● 指導教員 ● 就職担当教員
● キャリア教育 就職支援センター TEL.028-649-5089

？ 留学・生活、サークルについて
● 指導教員 ● サークル顧問教員
● 留学生・国際交流センター TEL.028-649-8186
● 学生支援課 TEL.028-649-9097

？ 健康・メンタル面の悩みについて
● 医師、看護師、カウンセラー
● 保健管理センター TEL.028-649-5123

？ セクハラ等の人権侵害の悩み
● ハラスメント相談員 ● 学生なんでも相談窓口

学生による支援活動
『ピア・サポート制度』
学生生活上の相談や悩みを抱える学部生・院生(導入生を含む)に対し、在学生が自身の経験等に基づいたアドバイスを行い、適切な相談窓口等の情報を提供します。

『ラーニング・コモンズ学生スタッフによる学びの支援(ピア・サポート活動)』
ラーニング・コモンズ学生スタッフは、皆さんと同じ学生という立場を活かし、宇大生の学びを学生の自認から支援しています。

- 先輩が皆さんの質問や相談に親身にこたえます
- 24時まで質疑・相談が受け付けています
- 学びに関するイベントも開催しています

学生スタッフ在室時間 / 平日 17:00～20:00
(平日 10:00～17:00までは担当職員が在室)

Weibo Twitter Instagram

Vision 1 未来を切り拓く人材の育成

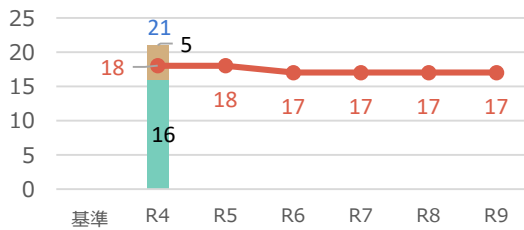
! 達成に向けて強化が必要な取組

戦略3 【実践的な大学院教育の推進】

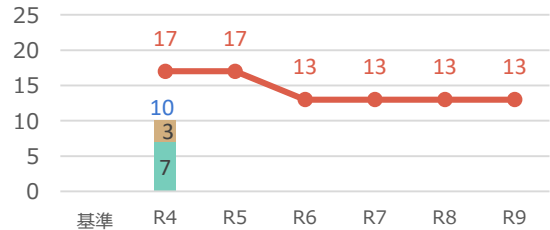
文理をまたがる指導教員体制のもとで、地域社会・産業界との共同研究、連携プロジェクト、フィールドワーク、長期インターンシップ、分野融合・学際的な修士論文研究課題等のフィールド教育を積極的に導入し、幅広い視野を持った高度専門職業人を養成します。

- ▶ 博士課程在学中の学術論文発表を支援・促進するため、「DC学生学術論文投稿支援制度」を開始したものの、令和4年度の投稿支援実績は2件のみに留まっています。
- ▶ 「博士号授与数^(*1)」は令和4年度で21件と、目標値(18件)を達成しています。一方で、「標準修業年限内における博士号授与数^(*2)」は令和4年度で10件となり、目標値(17件)を達成できておらず、達成に向けた一層の支援を進めていきます。

(*1)博士号授与数



(*2)標準修業年限内における博士号授与数



■ 国際学 ■ 工学 ● 目標値

Vision 2 持続可能な社会の実現に資する研究

着実に成果を上げている取組

戦略7 【研究力の強化と研究支援体制の整備】

日本初の光工学の学位を授与する大学として、オプティクス分野の教育研究の集約と体系化、国際化を進め、光工学社会実装拠点の確立を目指します。

- ▶ 海外からの研究者招聘や、企業寄附金の受入策など、年度計画が予定通り実施され、関連する達成指標はいずれも目標値を上回っています。
 - ・国際的工学ネットワーク(UU-GON)への教員派遣 [目標: 3名/年 → R4実績: 4名]
 - ・海外著名研究者の招聘 [目標: 2名/年 → R4実績: 3名]
 - ・企業寄附金 [目標: 3,000千円/年 → R4実績: 6,538千円]
- ▶ フランスやメキシコをはじめとする海外の協定校・協定予定校を精力的に訪問し、今後の学術協定や共同研究に向けた議論を進めています。
- ▶ 令和5年度運営費交付金において、教育研究組織改革分「オプティクス分野の教育研究の体系化と国際化による光工学社会実装拠点の形成」が措置されました。(R5措置額: 34,775千円)
- ▶ TOCHIGI TECH PLANTER(とちぎテックプランター)が令和5年2月に開催した「とちぎテックプランングランプリ2022」において、オプティクス教育研究センターの教員によるチーム「ホロデザイン」が行ったプレゼンテーション“ホログラフィで生産技術にイノベーション”が高く評価され、最優秀賞を受賞しました。



世界レベルの研究ポテンシャルを有する植物分子農学分野を中核に、持続可能なアグリバイオ産業に資する研究拠点化を目指します。

- ▶ 学内異分野融合型研究として10件を実施し、目標値(4件)を達成しています。また併せて、8回の学内交流会を開催しています。
- ▶ 栃木県農政部や県農業試験場いちご研究所などと4回の交流会を実施し、いちごの植物病理に関する対応策などを検討しています。また、栽培いちごで発生しているトラブルを解決するための共同研究を開始するなど、学外との社会的な連携も進めています。
- ▶ 外部講師による植物分子農学関連のセミナーをこれまでに23件実施しており、植物分子農学分野の研究に資する先端的な知見についての情報収集体制を構築しています。



Vision 2 持続可能な社会の実現に資する研究

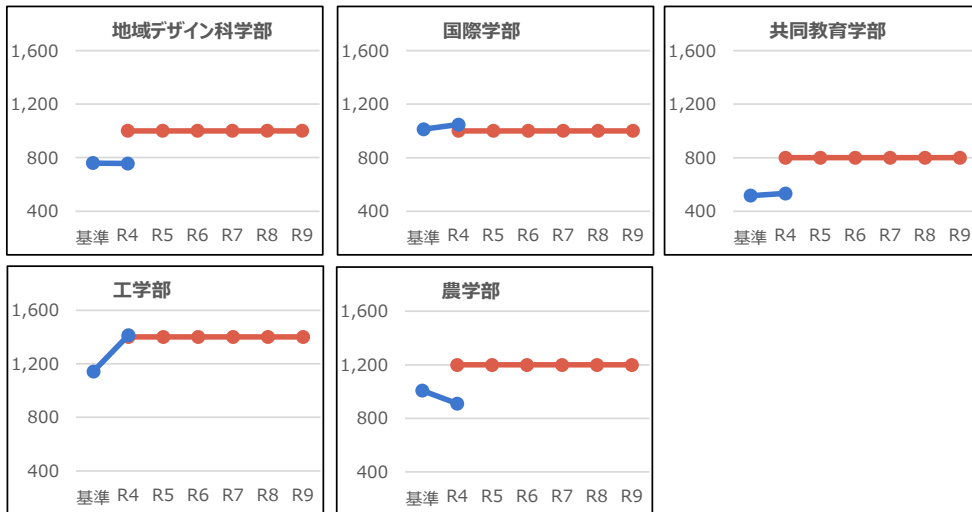
達成に向けて強化が必要な取組

戦略7 【研究力の強化と研究支援体制の整備】

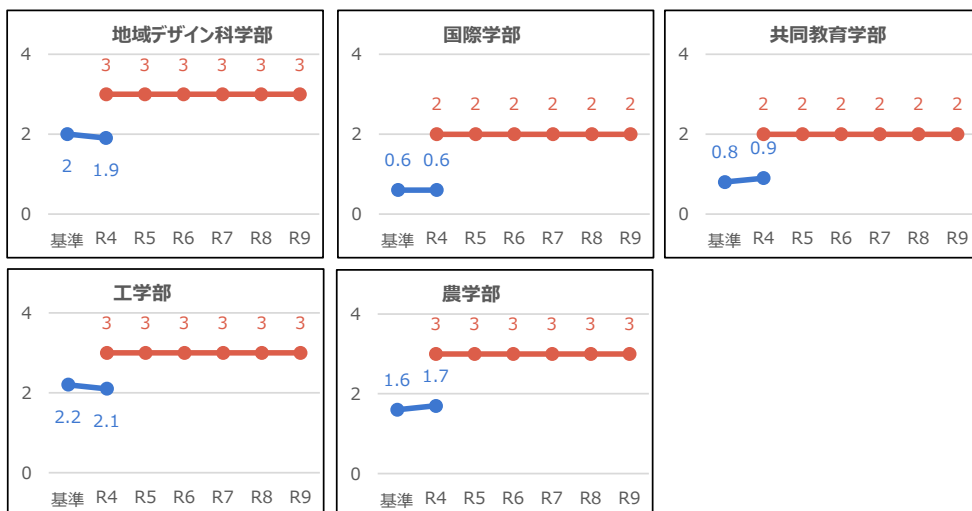
研究推進機構の先導のもと、分野融合・学際的研究を含む本学の強みとなる独創的で卓越した研究を強化、推進します。

- ▶ 英語論文投稿支援を7月より開始して、32件の支援を行っているほか、論文執筆セミナーを4回実施しています。また外部資金獲得支援策として、URAが主体となり「科研費プロジェクト」を実施しています。
- ▶ 研究IRに基づいた研究推進機構総合企画室会議の分析により、若手研究者飛躍促進経費による支援を行いました。
- ▶ 上記の取組などを通じ、「常勤教員当り科研費獲得額(*1)」は目標値を一部達成しているものの、「常勤教員当り研究業績数(*2)」は、目標値を達成しておらず、達成に向けた見直し・強化を進めていきます。

(*1)常勤教員当り科研費獲得額(千円) : H30~R2実績の20%増



(*2)常勤教員当り研究業績数(件) : H30~R2実績の50%増



Vision 3 対話から生み出される社会共創

着実に成果を上げている取組

戦略9 【地域創生推進モデルの確立】

地域及び産業界とともに地域課題・社会的期待を見出し、産学官金連携による共創体制を確立して地域創生に結び付くイノベーションを創出することで、地方自治体や地域の産業界をリードします。

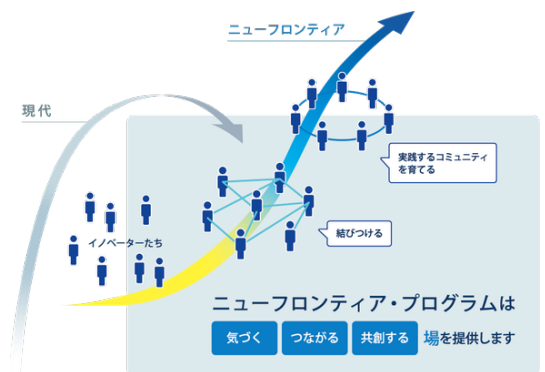
- ▶ 栃木の地域防災・レジリエンス社会の実現に向け、リカレント教育・研究・地域貢献を推進する「地域デザインセンター・地域防災部門」を設置しました。
- ▶ また、地元自治体等と連携した調査研究や実践事例をもとに、設立記念シンポジウムを令和4年12月に開催しました。



戦略11 【地域の学び直し拠点機能の拡充】

ニューノーマルのリカレント教育構築のために、本学独自の社会人学び直しプログラムである「宇大アカデミー」の高度化・デジタル化を図ります。

- ▶ 地域企業の経営者層をターゲットに、新たな社会人プログラム「宇大未来塾ニューフロンティア・プログラム」を創設しました。本プログラムは、大学教員や受講生同士の徹底的なディスカッションなどにより、参加者のステップアップにつながる学びの場を提供することを目的としています。
- ▶ 上記プログラムは全8回を対面で開講し、10名全員が修了しました。また、修了後アンケートにおいて「満足」と回答した割合は88%となり、高評価を得ています。



戦略12 【豊かな教育研究フィールドの活用と社会還元】

優良食味米として評価の高い「ゆうだい21」の戦略的普及により、生産者主導の新たな水稻普及モデルの確立を目指します。

- ▶ 優良食味米として近年さらに評価が高まっている「ゆうだい21」をさらに普及させるため、戦略的普及プロジェクトを立ち上げました。
- ▶ 生産者へのサポート・連携体制を構築するとともに、情報発信・ブランディングを強化して認知度向上に取り組みました。
- ▶ また「ゆうだい21サミット」やSNS上のキャンペーンを開催し、生産者・消費者双方対象のイベントを行いました。



Vision 3 対話から生み出される社会共創

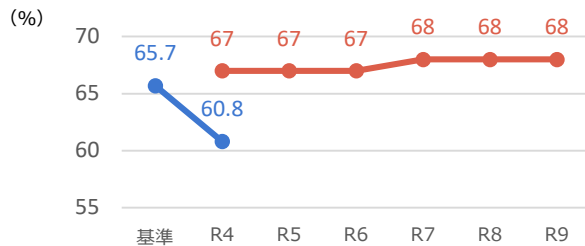
! 達成に向けて強化が必要な取組

戦略10 【地域教育界の先導】

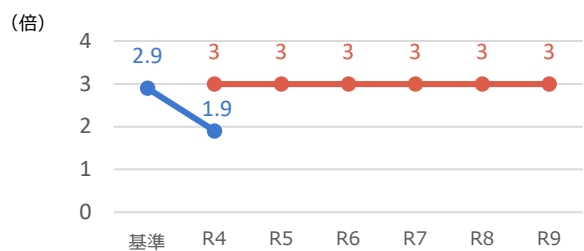
学部・教職大学院・附属学校が一体となって教員養成・研修機能の高度化を図るとともに、附属学校の地域のモデル校としての役割を強化し、地域における質の高い教員の育成と学校支援による学校教育の質向上に貢献します。

- ▶ 教員採用試験対策として「教員採用試験対策春期セミナー」や、就職支援室を主体とした論文指導、集団討論練習を実施しました。
- ▶ 高校への広報活動として、高大接続をアピールした刊行物を860校に送付したほか、本学卒業生のインタビュー動画を作成し、学部HP等で発信しました。
- ▶ 上記をはじめとする取組を実施しているものの、教員就職率^(*1)や共同教育学部の入試倍率^(*2)は目標値を下回っており、今年度の実績の成果検証を基に、次年度以降の計画策定を行います。

(*1)教員就職率68%



(*2)入試倍率毎年3.0倍以上



Vision 4 学内のコンセンサスに立脚した組織運営

着実に成果を上げている取組

戦略14 【ステークホルダーを巻き込んだ大学経営モデルの構築】

多様なステークホルダーとのエンゲージメントを通じた信頼関係を構築し、計画の進捗状況のチェック、成果の検証、計画の見直しの一連のサイクルを確立します。

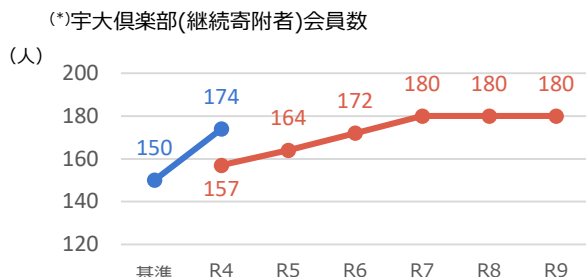
- ▶ 多様な関係者との対話を通して、開かれた大学運営と社会的価値の向上を目指すため、「ステークホルダー会議」を計4回開催しています。
- ▶ メンバーは検討テーマによりその都度編成し、「産業界、経済界中心の有識者」「高等学校長や進学担当教員」「栃木県内の市町長」などで構成し、多様な意見を頂きました。



戦略15 【安定した財務基盤の確立】

ステークホルダーとの相互理解の獲得と互恵的協働により新たな投資を呼び込むとともに、保有資産の最大限の有効活用に努め、安定した財務基盤の確立を図ります。

- ▶ 本学が保有する土地等に対し、新たな有効活用の在り方を検討するため、サウンディング型市場調査を実施しました。民間事業者等との対話により得られた知見や結果は今後の保有資産に関する長期計画策定に活用していきます。
- ▶ 3C基金において学内向けのキャンペーンを実施したことで、宇大倶楽部(継続寄付者)会員数(*)は前年度から大きく増加しており、継続的な増収に寄与しています。



陽東キャンパス フレームワークプラン - 30年後の長期計画 -



Vision 4 学内のコンセンサスに立脚した組織運営

！ 達成に向けて強化が必要な取組

戦略16 【働き方改革の推進によるワークライフバランスの実現】

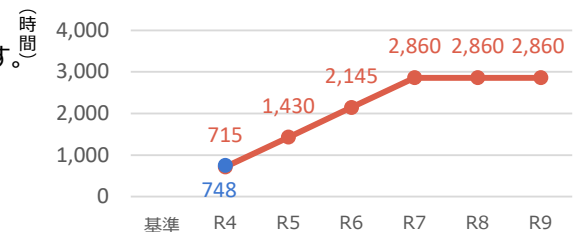
戦略17 【教職員の戦略的な配置】

D X（デジタル・トランスフォーメーション）の推進により、業務のさらなる効率化を図るとともに、リモートワークシステムを構築して勤務形態の柔軟化を進めるなど、ワークライフバランスの実現を目指します。

人事給与とマネジメントの高度化によって戦略的な人員配置と人材育成を行い、年齢バランスの適正化を図るとともに、若手・女性を積極的に採用して多様性の確保に努めます。

- ▶ 超過勤務時間の削減に関しては、ノー残業デーの周知や部局長連絡協議会における超過勤務状況の報告を通して、構成員への意識づけを図っており、目標値^(*)を達成しています。

^(*)超過勤務時間の削減数：R2年度比 20%減



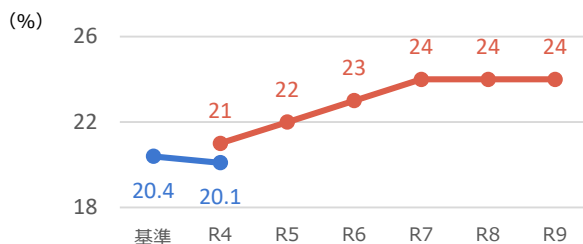
- ▶ 事務組織の効率化・高度化を目標とし、効果的な事務組織の改変や、超過勤務時間削減数に係る基準設定を年度計画としていたものの、遅れが生じており、達成に向けた見直し・強化に取り組んでいきます。

- ▶ 「宇都宮大学女性教員活躍推進のためのアクションプラン」及び「次世代育成支援対策推進法及び女性活躍推進法に基づく国立大学法人宇都宮大学一般事業主行動計画」を策定しました。

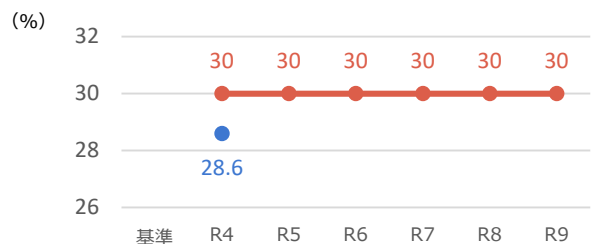
- ▶ 宇都宮大学3C基金による女性研究者の海外派遣(令和4年度実績：4名)等により、女性リーダーの育成及びワークライフバランスに向けた取組を実施しています。

- ▶ 上記をはじめとする取組を実施しているものの、女性教員数に関する各種の達成指標^(**2~5)は目標値を下回っており、達成に向けた見直し・強化に取り組んでいきます。

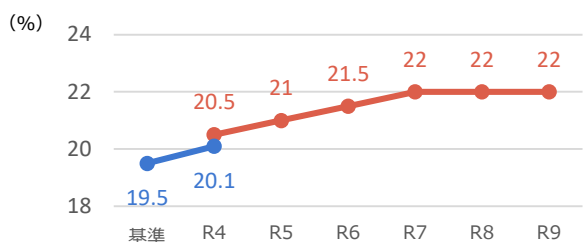
^(**2)女性教員比率24%



^(**3)女性教員採用比率30%



^(**4)女性教授等比率22%



^(**5)女性准教授比率21%

